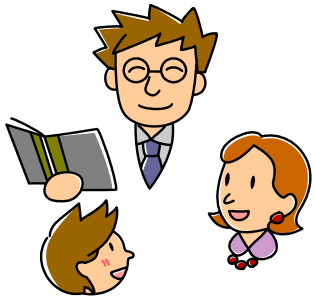
「ほっとルーム」を拠点として、組織的に機能する支援体制の充実

～チーム援助や子育て支援を通して～

特別研修員　見城　　守

【 研究の概要 】
不登校傾向や問題を抱える児童に対して、関係の深い職員でチームを編成し、コミュニケーション作り、保護者との連携などそれぞれの役割に応じて支援を行ってきた。また、子育てに悩む保護者に対して、「子育て支援セミナー」を実施した。これらの拠点となるのが「ほっとルーム」であり、組織的に機能する支援体制の充実を目指し、学校全体で取り組んだものである。



「ほっとルーム」の機能

登校を渋りがちな児童への支援は担任が中心でありその負担は大きい。また、家庭での子どもとのかかわり方に悩む保護者もおり、学校としての支援が必要である。
そこで、児童に対しては、チームを組んで支援することにより、効果的な支援ができ、担任の負担も軽減できる。保護者に対しては、子育てについて学校が共に学び合い、情報を発信して、相互の信頼関係を築くことが大切である。

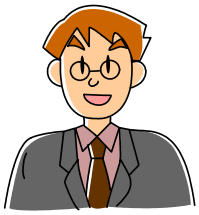
教育相談機能

○児童と関わりのある教師でチームを組み支援しました。
○共通理解　情報の発信　情報の共有が大切
人や情報を**つなぐ**ことがポイント

情報発信機能

○子育て支援セミナーを実施し、子どもとの関わり方について保護者と一緒に学びました。
○情報交換　家庭への情報発信　信頼関係が大切
学校と家庭を**つなぐ**ことがポイント

チーム援助

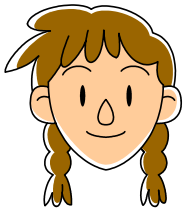


コミュニケーション

情報交換・共通理解

信頼関係　確かな支援

支援



支援

○チーム援助会議を立ち上げ、情報交換・共通理解を図りました。具体的な支援については、チーム援助シートを活用しました。保護者とも連携を取り協力を得ました。

子育て支援セミナー

子どもとのかかわり方について、保護者と共に学び合いました。

職員による役割演技

家庭と学校をつなぐ

保護者のニーズ

↓

プログラムの選定

↓

セミナーの展開

↓

家庭へ情報発信（子育て支援だよりの発

まとめ　○コーディネーターが動くことによって組織が動く

コーディネーターが関係の教師に声を掛けチーム援助会議を設定し、子どもの情報交換、援助策の提案をし、役割を確認して実践した。子育て支援セミナーでは、事前にＰＴＡ役員、ＰＴＡ担当教師とチームを組み、一緒に運営する意識を高めていった。支援の主体は教師（学校）であり、保護者（家庭）である。想いや願いを理解し合い、相互に連携することで、組織的な支援が実践できると考える。

○情報発信、情報をつなぐことで教師が動き、より確かな支援ができます。

○情報をつなぐためには、教師相互のコミュニケーションが必要。日頃より温かい人間関係を築き、人をつなぐことが大切です。

○子どもへの支援は家庭の協力が必要。家庭と学校をつなぎ信頼関係を築くことが大切。